
黒奏物語

魅橋 美香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒奏物語

【コード】

N0899C

【作者名】

魅橋 美香

【あらすじ】

これは主人公黒乃奇跡がある女子転校生に恋する物語である

出会い（前書き）

貴方は覚えているのだろうか…全ての出来事。思い出。悲しみ…

出会い

ある日―

オレの名前は黒乃奇跡。

極普通の高校生。今日は転校生が来るそうさ。まあドウデモ良いけどね。

母「奇跡！遅刻するわよ！」

黒乃「はいはい、いってきまーす！おうえびょん！」

いつもの様に走って登校する。

途中で捨て犬を見つけた。遅刻するというのに、何してるんだ、俺。

黒乃「可愛そうだな。」

女の子「捨て犬ですか？可愛い犬ですね。」

後ろから女の子が来た。その女の子は捨て犬より可愛かった。

黒乃は顔を赤くして言った。

黒乃「い、いや、そんなんじゃないから！……」

女の子「ふふふ、あ、いけない。ちこくしちゃうー！」

黒乃「いけない！おうえびょん！」

2人は学校へ走って行った。

これが2人出会いだっ……

出会い（後書き）

無事間に合うのだろうか……ていうか黒乃ってツンデレなのか？（

クラスメイト（前書き）

無事間に合った黒乃達だが…

クラスメイト

2人はギリギリ間に合った。

黒乃「で、貴方は何処のクラスで？」

女の子「すみません。ちょっと用があるので…」

そう言っただけの子は職員室に入って行った。

・・・

市立RT高等学校　　ここが俺たちが通う高校だ。

オレは1年C組のクラス。さっきも言っただけ今日転校生が来る様子。

先生「黒乃！遅刻は程々にしろと申したぞ！バカタレが！」

黒乃（うるせーな。いつもギリギリ間に合ってるつーの。）

美香「今日はいつもより遅く来ましたね。どうしたんですか？」

この人は枝墨美香（あだ名美香）。女子で1年団学級委員長&生徒会委員長。真面目っぽく見えるがかなり強くて心強い。

カナミ「よう。。。」

このいつも眠たそうにしているのは姫桜カナミ（あだ名カナミ）。

女みたいな名前だけど男子。なかなか良い奴だ。

ラグナ「あとで例のアレしようぜw」

そんな暇ねえつゝのw我応羅倶（あだ名ラグナ）。凄い名前だなあ、親の顔が見てみたいよ（あ　でも付き合いが良い人だ。

おもち「奇跡さん、転校生の紹介するので早く準備するようにw」
カナミの大親友、望月白叡（あだ名おもち）生徒会副委員長。いつ

もは廃人として皆と頑張っているがこういつときは真面目。

美香「では転校生を紹介しま〜す。」

ガララ！

黒乃「！貴方は…」

美香「渚由貴さんです。」

渚「皆さんよろしくお願ひします。」

黒乃「あ、貴方は…！！」

黒乃は大声で驚いてしまった。

先生「黒乃！何だ！」

黒乃「…いや。」

渚の方も驚いた様子。

美香（またクラスに新しい友達が増えましたね。）

カナミ（地味系か…興味ないな。）

ラグナ「なあ、なあ。お前の知り合いか？」

ラグナが小声で話しかけて来た。

黒乃「ち、ちげーよ。さっき話しかけられただけで…」

ラグナ「ふ〜んwまあいいやあいつにもTW招待してやろつかな。」

またそれかよ。

おもち（どうやら知り合いか…。部に招待してやろつかw）

先生「では由貴さんあいつの隣の席に座って下さい。」

黒乃 あいつ

由貴「っはい。」

由貴は黒乃の隣の席に座った。

黒乃「貴方は今日の、ここのクラスだったんすね。」

由貴「ふふ。よろしくお願いしますね。」

黒乃「…！」

ラグナ「おゝ赤くなってるw」

おもち「これは面白くなりそうかな。」

クラスメイト（後書き）

なんと転校生は朝出会った女の子だった。まだ全ては始まりに過ぎない…

不運：休み時間。（前書き）

休み時間・・・黒乃の不運とは？

不運…休み時間。

それから第一限英語が始まった。

先生「黒乃、この文の英訳は？」

黒乃「分かりません」

先生「次からちゃんと予習しておけ！では由貴。」

由貴「はい。それは（省略）です。」

先生「宜しい。」

…休み時間。

黒乃「腹痛いからトイレ行ってくる。おうえぽびょん！」

トイレ

黒乃「いたた…くそ、あの糞ババアめ…期限切れてるの入れてたな…いたた…」

こんこん。そのときに誰かがノックして来た。

黒乃「入ってまゝす。」

由貴「あの…黒乃さん？」

!?

黒乃「ちょ、由貴さん!?!ここは男便ですよ!?!」

黒乃はびっくりした。が、少しドキドキしていた。

由貴「黒乃さん…あの…」

黒乃「は、はい!?!」

由貴「美香さんが呼んでましたよ。」

なんだ。

黒乃「OK。ていうかそこにいたら出られないんですけどw」

由貴「あ、すみません。では。」

教室

黒乃「ん？つてあなたは2年団学級委員長！？」

零「yes・黒乃奇跡。待っていましたよ。」

黒乃「どうしてあんなが。」

零「まあまあ、そこに座ってからの話です。」

黒乃はゆっくりと椅子に座った。

零「さて話ですが。」

黒乃「・・・」

零「渚由貴の事です。」

黒乃「！なんだ？」

零「私が貴方を呼んだのは由貴と一番目に対面したのが貴方だからですよ。そして普通の話ではないこと…分かってますよね。」

黒乃「あの子が…どうしたんだ？」

零「それは聞いてからの楽しみです。さて…君は君は今から希望を聞くか…絶望を聞くことになるか…楽しみですね。」

不運…休み時間 (後書き)

突然迫り来る不安…

疑い。。。 (前書き)

希望か絶望か。

疑い。。。

黒乃「な・・・に？」

零「知ってますか？この世には『シリウス』という暗殺部隊がある事を。そこには選ばれた暗殺の素質がある者が沢山いるのです。」

黒乃「・・・」

零「そして人間は生まれてへその緒を切った時切った所から「霊」が抜け出す。その事から人間には「真と霊」に分かれるんですよ。選ばれた暗殺の素質は霊から来るのです。」

黒乃「で、それが彼女と何の関係が？」

零「この写真を見て下さい。シリウスメンバーの写真です。」

そして零は少し笑いながら見せた。

黒乃「・・・！！！」

黒乃は驚いた・・・！写真には渚由貴が写っていたのである！

黒乃「ば・・・かな・・・何かの間違いじゃ・・・」

零「・・・後一つ教えときましようか。と、その前に・・・」

零「今日家から出て初めてあつたのが渚由貴ですね？」

黒乃「ああ・・・」

零「それです。」

黒乃「!？」

零「実はですね・・・シリウスの次標的は君、黒乃奇跡なのですよ。」

黒乃「な・・・!」

零「くれぐれも気をつけて下さい。それから・・・」

美香「あの・・・」

零「What? 美香？」

美香「今日はその辺にしておいてくれませんか？私も話があるので

・・・」

零「そうですね。では・・・」

そう言つて零は出て行った。

黒乃「…」

まさかあの子が…そんな訳が無い。何かの間違いじゃ…

美香「黒さん？話が…」

黒乃「…何？」

美香「彼女が心配なんだよね…そう言うときは、ちゃんと聞いてみた方がいいよ。間違いかも知れないし。」

黒乃「でも…もしそうなら。」

美香「大丈夫。今日会がないから皆で一緒に帰ろう。そのときに聞いてみよう。」

黒乃「…うん。」

ラグナ「そうだぜ！」

黒乃「うわ！」

ラグナ「俺たちが付いているから…勇気付けて行こうぜ！？」

カナミ「めんどくさいけど…まあ手を貸してやる。」

おもち「何かあったらいつでも俺たちに相談に乗ってくれ。だって俺たち仲間だろ。」

皆の頼もしさに涙が出て来た。

黒乃「皆…ありがとう…。」

疑い。。。 (後書き)

共に信じ、共に愛する仲間達…

質問・・・天使。(前書き)

黒乃達はとりあえず渚由貴に聞く事にした…

質問・・・天使。

俺の席の隣が由貴さんだがなんとか無事に6限まで終わり、下校になった。

約束通り皆で下校する事にした。

俺はいつ聞こうかタイミングを考えていた。

黒乃「あつ朝の時の捨て犬。」

カナミ「猫だったら拾ってやったのに。」

いや、そう言う問題じゃ・・・

由貴「本当に可愛そうですね。」

美香「…黒さん。まだ聞かないのか？雰囲気作れたんだし。」

黒乃「あ、うん。由貴さん！」

由貴「はい？」

黒乃「実は・・・」

数分後・・・話が終わる。

由貴「ええ！？w別に私はそんなんじゃない・・・」

黒乃「！で、ですよね！？あはは・・・w」

美香「良かった・・・」

もう安心でいっぱいだった。

由貴「じゃあ証拠に…明日、家に遊びに来ませんか？」

黒乃「あ、うんw」

由貴「では私はこっちなので・・・」

黒乃「はいwおうえぽぴょん！」

ラグナ「あの子の家ってどんなのかな？」

おもち「廃人だったりしてな。」

いや、それは無い。

美香「そういえば、私らにシリウスはいないよね？」
おもち「いないよ、安心しな。」

美香「じゃあこの中で「霊」を取り戻している人は？」

しゅん……

黒乃「みんな取り戻していないのか。」

美香「早く取り戻したいな……」

美香「じゃあ私たちはこつちなのでw」

カナミ「じゃあな」

黒乃「おうえぽびょんw」

まあ、由貴さんがシリウスじゃ無かったのは安心した。

黒乃「さてと……ん？」

上空

????「そこだ！追え！」

????「ちい……！これでも喰らえ！」

????「ぐっ！覚えてろ！」

追っている方は何所かへ飛んでいった。

でも、追われている方はこちらに向かって落ちて来た！

黒乃「うわ！」

ドドン……！

黒乃「天使……！？」

そう、確かに落ちて来たのは天使だったのだ！

????「う……なんとか逃げれた……」

くそ、なんだよ。何で天使なんか落ちてくるんだ？

黒乃「大丈夫かよ。」

ミカエル「大丈夫だ。すぐに傷は癒える。俺はミカエル。あんたは？」

黒乃「……黒乃奇跡。しかし何で追われてたんだ？」

ミカエル「よろしくな、黒さん。詳しくは黒さんの家で話そう。」

黒乃「あ、ああ。(黒さんと呼ぶのって美香と同じだな……)」

ミカエル「じゃ、いこうか!」

バサッ!

ミカエルの背中から翼がはえて、宙を飛ぶ!

黒乃「う、うわ!」

ミカエル「しっかり捕まってる!」

ま、マジで天使かよ!

そして超スピードで家に着いた。

質問・・・天使。(後書き)

シリウスじゃなかったのは良かったが、次に大きな展開となる…

ミカエル

黒乃「はいはいいただきます」

黒乃はポケットからキーを出し、玄関のドアを開けた。

ミカエル「家族は？」

黒乃「出かけてるみたいだな。親父は仕事、糞ババアは妹と出かけたんじゃないかね？」

ミカエル「好都合…！w」

ミカエルは目を光らせた。

黒乃「へ…？」

ミカエルは階段をどたどたと上って行った。

黒乃「元気な奴…w」

2階、黒乃の部屋。

黒乃「で、理由を聞こうか。」

ミカエル「実はな…」

・・・

ミカエルは一つある罪を犯した。

そして神の命令で追われえていたのだ。

俺は神なんて信じていなかったが

本当にいたんだな。

以上。話の要約。

ミカエル「まあそう言う訳だが…」

黒乃「うんうん。納得した。」

ミカエル「天使は皆、霊なんだ。俺の真を知らないか？」

美香っばい。多分。

黒乃「俺のクラスにお前と似てる奴がいるんだけど、そいつじゃないか？」

ミカエル「おk、明日学校で戻ろっじゃないか。」

次の日

ミカエル「起きろー！」

黒乃「んあ…！こんなに早く起こさなくていいだろ。」

ミカエル「そうか？でもこんぐらいに起こさないと間に合わないぜえ？」

黒乃「はいはい、と。」

黒乃はあくびをしながら1階へ降りて行く

黒乃「飯飯つと。最近朝飯食ってなかったぜ。」
そう言つて台所からパンを取り出す。

昨日のみそ汁をすくつてお椀に入れて行く。

続いて冷蔵庫から牛乳を取り出しコップに入れる。
朝飯完成。

母「あら今日は早いのね。」

ミカエル「やべ！w」

ミカエルは瞬時に消えた。

黒乃「ああ…妹は修学旅行だよな」

母「そうよ。あ、今日はお野菜が安いから朝市行ってくるわね。」

そう言つて母は出かけた。

黒乃はパンに蜂蜜、ジャムを付ける。

最後にミミだけ残し、マーガリンを付けて食べる。

ミカエル「凄い食べ方だな…」

黒乃「うるせえよw」

続けてみそ汁を食い始める

ミカエル「そうだ！天使特製の飯をごちそうしてやるぜ。」

そう言つてミカエルはエプロンを付けた。

黒乃（うわ、きも…w）

ミカエル「ん？なんか言つた？」

黒乃「いや…w」

ミカエルはあつという間に飯を作り上げた。

そのときには黒乃は食い終わつてた。

ミカエル「はい、どーぞ。」

むしゃむしゃ…！

黒乃「う、うめえ…！！wwwwww」

ミカエル「だろ？」

黒乃は満足しながら2階へ着替えに入る。

黒乃「よし！準備完了！」

そして黒乃は家を出た。

ミカエル「飛んで行つてやるうか？」

黒乃「へ…？」

そう言つたときにはもう飛んでいた。

黒乃「うおー！！！！」

1分で到着！

虚空 零

教室へ入る。

美香「お、今日は早いですね。」

黒乃「いや…っ！渚さんも！」

渚「おはようございますw」

黒乃はその笑顔に癒されてしまった

黒乃「っアレ・ミカエルは？っ何してんの！」

何とミカエルは美香とキスをしていた…

その時突然光り、ミカエルが消えた。

そう。美香は元の体を取り戻したのだ。

黒乃「戻った…のか。」

美香「…！はいw」

黒乃「良かったじゃねえか。」

美香「そうだなあ…この体だと扱いづらい…」

その時声がミカエルになった。

黒乃「うええ！？」

ミカエル「ははwまあ俺はこうやって一時的体を借りる事も出来る
って事よ。」

美香「真と霊を一つにするときは契約を結ぶ「儀式」をしないと
いけないようですね。」

黒乃「よくやる勇氣があるなあ^^；(っっていうかもし俺の霊が男
だとしたら…うええw」

ミカエル「どうした？wなんか変なの創造したか？」

黒乃「い、いやw」

第1限が始まる前に黒乃が早く来た事が皆驚いていた。

黒乃「そんなに珍しいかよ……」
そしてミカエルと美香が契約した場面は黒乃、由貴以外は誰も見ていない……

先生「黒乃……いつもそれぐらいにこいよ。」

黒乃「あゝはいはい。」

第1限中黒乃は寝ていた。

先生がチヨークを投げるのだが（古 美香が念動力で曲げる。

先生や皆はびっくりするのである。

休み時間

トイレから帰って来た黒乃。また教室には零がいた。

黒乃「！」

零「やあ。また会いましたね。フッフ……」

黒乃「今日は何を？」

零「昨日の返答ですよ。渚由貴。どうでした？」

黒乃「彼女は……敵じゃない。」

零「What? どうしてですか？」

黒乃「直接聞いた……証拠に今日家に来て……」

零「そうですね……！」

一瞬零の目の色が変わった。

黒乃はゾツとした。

零「良いですか？口では何でも言えるんですよ。嘘を、ね。もし家に来て言うのが畏だしたらどうするのです？」

黒乃「……それでも、行く。俺は渚由貴を信じている。彼女はシリウスじゃない！」

その時零は微笑んだ。

零「クッフ……くははは！」

黒乃「な、なんだよ……」

零「本当に君は面白い人ですね……良いでしょう。僕も信じますよ。さて、今日はこれくらいにしましょう。」

黒乃「あ、ああ。」

そう言つて零は教室を出た。
黒乃「なんだよ、不気味な奴……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0899c/>

黒奏物語

2010年12月29日18時43分発行